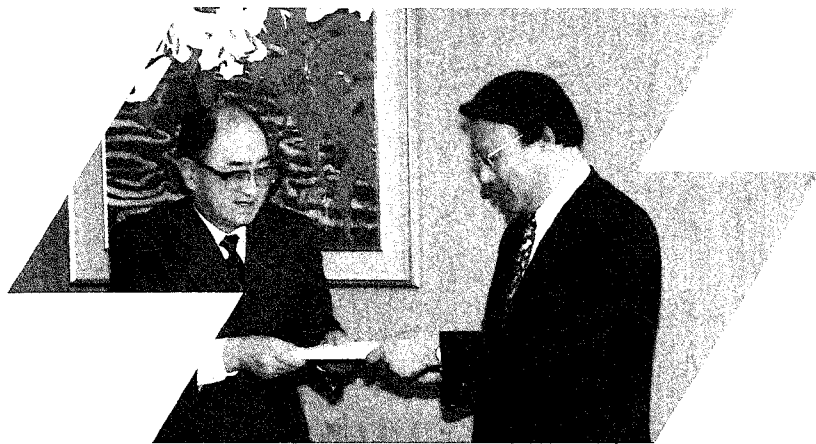


「都留文科大学を 考える市民懇話会」 からの提言



奈良博順座長から意見書を受け取る小林市長

昨年の6月9日、地域と大学のつながりを強め、ともに発展できるまちづくりの構想などを検討していただくため、「都留文科大学を考える市民懇話会」が設置され、このたびこの市民懇話会から5項目の提言が出されましたので、その要旨をご紹介します。

一 開かれた大学

(生涯学習の場として、また地域文化の発信地として活用)

- 市民参加型の公開講座
- 企画段階から文化協会、体育協会などの各分野からの参加を求める
- 子ども向けの体験学習的な講座にも取り組む
- 開催場所を大学に限定せず、市民の集まりやすい会場を選定する
- CATVやインターネットなどを利用し、講座の範囲を広げていくことで、ミニ放送大学的な組織づくりをも視野に入れた展開を図る
- リカレント教育の実施
- 卒業生を対象としたサマースクールの開催

二 大学の充実

(研究・教育の環境整備)

- 新図書館建設に伴う大学用地の確保
- 小・中学生や保護者にも異文化の機会を与えるため、国際交流センターまたは、その機能を含めた多目的の学生会館建設
- 情報処理教育や国際的教育を視野に入れた特色ある教員の養成
- 初等教育学科に「生徒指導」を主眼においた大学院修士課程の開設
- 学生相談室へのカウンセラーの常駐

三 大学の財政

(充実・発展のための財政支援)

- 約二千九百人の学生生活によってもたらされる経済効果は大きく、市からの財政負担を当然考慮すべきである
- 一万七千人を超える卒業生からも、大学の運営についての協力を願う時期である
- 私立大学的な経営方法を取り入れた、公設民営方式の検討

四 大学周辺

地域の整備

(大学を中心とした都市計画)

- 大学周辺地域(梁山・田原地区)を中心に整然とした街並みを形成するとともに、市民と学生が共同利用できる教育、文化、スポーツ、レクリエーションなどのための一大ゾーンの形成

五 学生と

市民との交流

(市民生活の中の役割を担う学生)

- 生活経験の乏しい学生とコミュニケーションをとりながら、ごみ問題に取り組むことが大切であるが、入学時のオリエンテーションなどの機会に、生活ルールや習慣などを指導する必要がある
- 「つる子どもまつり」や「第九演奏会」など、市民と学生共同参加によるイベントの定着
- 商店街活性化対策のための研究会などへの学生参画
- 学生やその家族に対し、商店街が組織ぐるみで各種イベント(入学式や卒業式時などの歓・送迎イベント)を計画する
- 梁山・田原地区への駐在所の設置や防犯用設備の充実

このようのご意見をもとに、今後ますます市民と大学との連携を強め、大学を核としたまちづくりに取り組み「教育首都つる」を目指してまいります。